



# 杉

故郷を愛し心豊かにたくましく生きる西山っ子の育成  
豊かで思いやりのある子 よく考えくふうする子 健康でたくましい子

第 30 号 平成 29 年 1 月 17 日(火)

文責：菊地正人

## 冬本番到来！ 大雪です

今年も「少雪暖冬」と言われていましたが、その予想はずれて先週から雪となりました。学校周辺の積雪は1mを超えています。大成沢や琵琶首は当然多く積もり、高森地区はバスと同じ高さになり2mを超えるほどの積雪となっています。連日、朝からの除雪作業でお疲れの方も多と思います。しかしながら、うれしいことに子どもたちの欠席は少なく、大雪や寒さにも負けず全員元気に登校しています。本当に頼もしい限りです。この元気で、このパワーで3学期を乗り切っていきたいと思います。なお、かぜ予防と事故防止については、引き続きよろしくお願ひします。



## 「全校のつどい」の話から…

毎月1回「全校のつどい」の中で、校長からいろいろな話をしています。今回は、人の話を「きくこと」について話しました。「人の話をきく」に使われる漢字は、聞です。耳という時が入っていて、「音として会話をきく」「情報を耳に入れる」といった意味になります。一方、別の字の聴くはどうでしょう？今回は、この「聴」にはいろいろな意味が込められていることを話しました。「耳を傾け、相手の心に寄り添いながらきく」といった意味になります。そして、この「聴」の漢字を分解して、よく見て見ると、耳 + 十 + 四 + 心 となります。耳だけでなく、十四の心で聴こうという意味です。さらに、耳に目と心を合わせているので、心をこめて、心の目で見て感じて聴くことが大事になってきます。では、十四の心とは、どんな心なのでしょう？ 十四のうち四つ程あげますが、残りの心について皆さんもいっしょに考えてみてください。①「美」しい心で聴く ②「新」しい心で聴く ③「広」い心で聴く ④「楽」しい心で聴く（きいて、たのしくなる）・・・（あとは、裏面参照）

このように、聴くということは、耳・目・心をもって聴くことです。他の人と話し合いをしたりコミュニケーションをとったりする場合も、まずは相手の話をしっかり聴くことを大事にしたい。という話をしました。



本校の子どもたちは「聴くこと」は申し分ありません。いつも集中して聴くことができます。ただ、自分の考えや意見を自分から話すこと、発表することや一つの課題を数人で話し合い、答えや結論を出すための学習は十分とはいえませんので、これからさらに、学校あげて取り組んでいきたいと考えています。